

Breast Imaging Framework

— 診断を支える基準と技術 —

特集

Women's
Imaging
2026

企画協力：篠原範充 岐阜医療科学大学大学院保健医療学専攻教授

乳腺画像診断では、BI-RADS v2025の発行や乳房構成通知制度をめぐる議論、J-STARTの最新エビデンスなど診断の基準がアップデートされています。一方で、マンモグラフィのポジショニング解析をはじめ各モダリティにAI技術の応用が進んでいるほか、オミックス融合によるプレジジョン・メディシンへの期待も高まっています。そこで、本特集では、「Breast Imaging Framework—診断を支える基準と技術—」をテーマに、乳腺画像診断を支える基準と技術の最新動向を取り上げます。

I 総論

Breast
Imaging
Framework

— 診断を支える基準と技術 —

特集

Women's
Imaging
2026

Breast Imaging Framework

— 診断を支える基準と技術 —

篠原 範充 岐阜医療科学大学大学院保健医療学専攻

近年、乳腺画像診断を取り巻く環境は大きく変化している。乳がん罹患数の増加や高濃度乳房への関心の高まりに加え、デジタルブレストトモシンセシス (DBT)、乳房MRI、自動乳房超音波画像診断装置 (ABUS)、PET など各モダリティの技術進歩、さらには人工知能 (artificial intelligence : AI) を活用した診断支援技術の発展により、乳腺画像診断は新たな時代を迎えつつある。一方で、画像診断技術のみならず、BI-RADS (Breast Imaging Reporting and Data System) 第6版、『乳癌取扱い規約』、『乳房構成の通知』、J-START (乳がん検診における超

音波検査の有効性を検証するための比較試験)をはじめとする検診エビデンス、『日本の診断参考レベル (2025年版) (Japan DRLs 2025)』など、『診断を支える基準』や『品質管理』の重要性もこれまで以上に高まっている。

本特集「Breast Imaging Framework—診断を支える基準と技術—」では、このように転換期を迎えている乳腺画像診断について、『Diagnostic Framework』『Imaging & AI Framework』『Quality & Practice Framework』の3つの視点から整理し、乳腺画像診断の「現在地」と「これから」を俯瞰することを目的として企画

した。各分野の第一線で活躍されている先生方に、最新の基準・技術・品質管理・臨床応用について概説いただくことで、乳腺画像診断の基盤となる考え方から、将来の個別化医療やAI時代を見据えた新たな展開まで、多角的に理解できる特集となることを期待している。

Diagnostic Framework — 乳腺画像診断の基盤 —

乳腺画像診断において、診断精度を維持、向上させるためには、共通した診断基準とエビデンスに基づく Framework